

◆28番（森田卓司議員）

皆さんこんにちは。東区、そして中区の自民党議員に続きまして北区の自民党岡山市議団の森田卓司でございます。

さて、昨日は昼間に男子マラソン、そしてファジアーノの試合、そしていろんなテレビでも、それから地元でも本当にいろんなことがありまして、市長もテニスの開会式に行かれておったと先ほど松島議員が言われておりました。私も甲子園を見に行っておりました。それは阪神甲子園球場じゃなくて、「OKAYAMA！市民体操甲子園」、これを見に行かせていただいております。（笑声）そこで5組の方が予選を勝ち抜いて、各種団体の部を見に行かせていただいたんですけれど、それぞれの地域の特徴、それから団体の特徴を生かして、同じ体操でも本当にいろんなやり方があるんだと改めて感心したところがございます。結果からいうと、たけべ栄養鮮隊が最優秀賞をとられまして、御津からも出られていたんですが、御津も奨励賞という立派な成績をとられました。本当にすばらしいことだと思っております。

そういう中で、ことしは花粉症が来ないかなと思っていたんですが、きのう、おとといぐらいからくしゃみが出ています。この質問中にくしゃみが出ないことを祈りながら質問に入らせていただきます。よろしくお願ひします。

それでは、まず1番目、行政の継続性について。

今議会に上程され議論がされている長期構想案は、平成21年4月の政令指定都市移行に合わせて岡山市都市ビジョン（新・岡山市総合計画）の理念を引き継ぎながら、少子化、人口減少等社会情勢の変化が到来することを踏まえ、未来志向の躍動感のあるまちづくりを市民と行政が協働して進めることにより、まちの変化を創出し、まちの活力、市民の岡山への愛着と誇りを目指すために策定されています。このように、行政の継続性の見地から、時代がうつっても方向性や取り組みは基本的には尊重されて受け継がれるべきであると思っております。

そこで、過去の事業についてですが、旧建部町は49年前、1967年1月に旧福渡町と旧建部町が合併してできた町です。そして、2007年1月に岡山市と合併し、現在2016年に至っています。先日、偶然でありましたが、1988年1月に建部町制施行20周年記念行事として現在の建部支所の前にタイムカプセルを埋設し、30年後の2017年度に掘り起こすこととして、町民に宛てた当時の町長のメッセージを初めとするその当時の資料などがおさめられていること等が掲載されている1988年2月の広報たけべを読みました。

そこでお尋ねいたします。

(1) 2018年1月がタイムカプセルを埋設して30年になりますが、旧建部町が埋設したタイムカプセルの掘り起こしについて、行政でどのような行事を計画されているのか、お示してください。

(2) 掘り起こした後に、再び未来へ向けて大森市長のメッセージや子どもたちの手紙などをタイムカプセルにおさめ埋設し、さらなる未来への遺産を残すことを提案いたします

が、いかがでしょうか。

続きまして、2番目、高齢者から子どもたちまで安心して住み続けることができるまちづくりについて。

警察庁生活安全局生活安全企画課が平成27年6月に発表した平成26年中における行方不明者の状況資料によると、認知症による行方不明者は1万783人で、平成25年度より461名ふえております。また、新聞報道ですが、岡山県の認知症の行方不明者は同年213名となっています。

御津・建部地域でも毎年と言っていいほど高齢者や認知症の方が行方不明となり、幸いにも無事発見することができた場合や、発見はできたが不幸にも亡くなっていた例、またいまだに行方不明のままの状態の方もいらっしゃいます。直近では昨年末に高齢者の男性が行方不明になり、岡山北警察署を初め地元町内会、消防団員の方々等が大みそかから正月にかけ捜索活動を行いました。現在まで発見するに至っておりません。もちろん、一番悲しい思いをされているのは家族の方であります。そして、捜索活動に参加された全ての皆様方が今でも発見されないことに無念の思いをされております。

山口県下関市では、認知症対策で、地域で支えるまちづくり宣言を平成27年3月27日に市議会本会議にて市長が宣言されています。また、群馬県高崎市では、平成27年10月から、所在不明になった認知症高齢者を全地球測位システム——GPSを活用して探すはいかい高齢者救援システムの運用を開始されています。

そこでお尋ねいたします。

(1) 岡山市の認知症の高齢者に対する今までの取り組みと、平成28年度当初予算案の岡山市版オレンジプラン推進事業の内容を具体的にお示してください。

(2) 昨年末の行方不明者の捜索活動は、警察を初め地元の協力はもちろんですが、消防団の方々の協力にいつものことですが大きな感銘を受けました。周辺地域では、他の自治体にも捜索活動が広がる可能性もあると思いますが、消防団としてはどのような体制で行方不明者の捜索活動を行うのか、御所見をお示してください。

(3) 高崎市では、市内に在住する65歳以上で徘徊行動が見られる認知症高齢者を介護している家族で、高齢者の介護認定の有無は問わないとの条件でGPSを活用して認知症高齢者を捜すシステムを運用開始しているが、本市でもこのようなシステム運用は考えられないでしょうか。

次に、平成28年度当初予算案の新規事業で、地域防犯ボランティア支援事業が予算計上されています。

そこでお尋ねいたします。

(4) 事業の具体的な内容をお示してください。

次に、3番目、努力が報われる農林水産業の実現に向けて。

農林水産省では、本年1月に農林水産分野におけるTPP対策について、農政新時代とのタイトルで策定されています。TPP大筋合意の概要、品目ごとの農林水産物への影響、

総合的なＴＰＰ関連政策大綱が示されています。岡山市の農業も、努力が報われるもうかる農業政策を考えなくてはならないと思っております。

そこでお尋ねいたします。

(1) 今議会の提案理由説明で、有害鳥獣対策の大幅な拡充について示され、私自身も、また今まで議会で発言された多くの議員も、2.5倍の予算と市長が言われて喜んでいるのではないかと思います。岡山市の今後の農業については触れられていません。平成28年度予算案から、今後の岡山市の農業について御所見をお示してください。

(2) 平成21年策定の岡山市都市ビジョンの平成27年度成果指針で、岡山市の農林水産物の安全・安心イメージ65%、認定農業者数720経営体、認定農業者等が耕作する農地の割合——利用集積率33%と示されていますが、現状をお示してください。

(3) 岡山市の特色を生かした農業振興の政策が必要ですが、国や県との連携が不可欠であると思います。情報収集や連携はしっかりととれていますでしょうか。

次に、昨年10月23日から26日まで、北海道安平町で開催された第14回全日本ホルスタイン共進会で、岡山県代表牛として参加した岡山市の出品牛3頭が優秀な成績をおさめられました。この共進会は、5年に一度開催されているが、口蹄疫と東日本大震災の影響で第13回大会が中止となり、今大会は平成17年度以来10年ぶりの大会となった。42都道府県から過去最多の約380頭の出品があり、月齢ごとに18部門に分かれて審査され、北区建部町福渡の佐賀牧場さんの出品牛が第7部優等賞4席、北区建部町下神目の妹尾始さんの出品牛が優等賞2席、岡山県立高松農業高校の出品牛が第1部1等賞3席の優秀な成績をおさめられました。

そこでお尋ねいたします。

(4) 岡山市の酪農家が、先ほど述べたような立派な成績をおさめられたことに対しての御所見をお示してください。また、10年ぶりに開催された同大会に岡山市としてどのように関与したのかお示してください。

(5) 酪農家に対する支援策についてはどのような対策をとられているのか、お示ください。

次に、4番目、JR津山線と国道53号線についてお伺いいたします。

JR西日本のホームページで、本年4月から6月にかけて開催する晴れの国おかやまデスティネーションキャンペーンに合わせて、中心市街地ではイベントが企画されているようです。同期間に、岡山県北部エリアの懐かしいまちへ向かう観光列車みまさかノスタルジーを津山線で運行開始すると示されています。JRでは、おもてなしの企画を準備されています。

そこでお尋ねいたします。

(1) 岡山市は、みまさかノスタルジーに何らかの形で参画されていますでしょうか。

津山線の利用促進と沿線の活性化を図るよい機会だと思っておりますが、いかがでしょうか。

次に、国道53号線についてですが、平成26年度決算委員会での私の質問に対して、沿

道の活性化に資する行事を実施している。また、53号線の改良についても国に要望活動を行っているとの答弁をいただいています。御尽力に感謝を申し上げます。

そこで今回はピンポイントでの提案でございます。

(2) 朝夕を中心に、御津地域の53号線は激しい渋滞が日常化しています。葛城橋、三谷橋、金川大橋交差点の改良で渋滞が緩和することができると思います。当局任せにするつもりはありませんが、ぜひとも一緒になって強い要望活動をして渋滞緩和に取り組むことを提案いたしますが、いかがでしょうか。

以上で1回目の質問を終わります。

御清聴ありがとうございました。

◎河野広幸市民生活局長

2番目の項、高齢者から子どもたちまで安心して住めるまちづくりについて、地域防犯ボランティア支援事業の具体的な内容につきましてお答えいたします。

地域防犯ボランティア団体は、通学路での見守りや声かけ、夜間を含めた地域のパトロールなど、地域の防犯に重要な役割を果たしているところでございますが、多くの団体が高齢化や後継者不足などが課題となっており、団体の活性化や育成に向けた取り組みが必要となっております。こうしたことから、平成28年度は防犯や交通安全に対する専門的な知識や経験を有する職員を新たに配置し、地域防犯ボランティア団体に対して自主防犯活動を実施する上で注意すべき点を指導したり、効果的な活動が行われるよう必要な助言を行うなど、団体の活性化や育成に資する支援を行おうとするものでございます。

以上でございます。

◎那須正己保健福祉局長

同じ項、認知症高齢者への今までの取り組みと平成28年度予算のオレンジプラン推進事業の内容のお尋ねでございます。

岡山市における認知症施策につきましては、岡山市版オレンジプランに基づき推進しているところであり、主なものとしては認知症コールセンター事業、認知症支援チーム事業、認知症サポーター養成事業、身元不明高齢者一時保護事業、また認知症カフェなどがあります。平成28年度の新たな取り組みとして、認知症かどうかわかるタッチパネル式の機材の導入、それから行方不明高齢者さがしてメール、メール配信で協力をいただくというそういった事業の運用開始、それから認知症カフェの拡充、こういったものを行ってまいりたいと考えております。

次に、GPS活用の御提案でございます。

議員御提案のGPSを活用した認知症高齢者の方を捜すシステムにつきましては、行方不明者の方を幾ら捜索しても発見できない場合に、GPSを装着しておけば発見の可能性が高まるツールになるものと考えておまして、今後岡山市としても研究してまいりたい

と考えております。

なお、岡山市としては、さきに松田隆之議員の御質問にお答えしたとおり、まずは行方不明高齢者さがしてメール事業ということで、この運用開始の準備を進めていきたいと考えております。

以上でございます。

◎石田和清消防局長

同じ項、行方不明者に関する消防団の捜索体制についてお答えいたします。

行方不明者が発生した場合には、まず御家族等が行方不明者届を警察に出すこと、そして町内会等へそのことを発信していただかなければなりません。捜索範囲が岡山市と他の市町村にまたがった場合、捜索範囲を管轄する警察、地元にて要請していただき、それらの要請に基づきそれぞれの消防団が協力して捜索活動に従事する体制となります。

以上です。

◎山本修司経済局長

3番目、努力が報われる農林水産業の実現に向けての項、まず当初予算案から今後の岡山市の農業についての所見をとのお尋ねにお答えします。

総合的な有害鳥獣対策のほか、岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略の活力ある農業の振興に掲げている2つの柱である新たな担い手の確保、育成、地産地消の推進と農村コミュニティの再生、強化に重点的に取り組むこととしております。具体的には、若手農業者モデル経営体登録事業、UIJターンの園芸農業者に対する初期施設整備や担い手への農地集積に対する支援制度を新たに設け、岡山市内外からの新規就農者を確保、育成し、農業者の経営力の向上を図るとともに、おかやまマルシェ——仮称でございます——の開催等による地産地消の推進や多面的機能支払交付金事業の拡充による農村コミュニティの再生、強化に取り組んでまいりたいと考えております。

次に、都市ビジョンの平成27年度成果指標の目標値に対する現状についてお答えします。

岡山の農林水産物の安全・安心イメージの割合は、目標値65%に対して、本年度実施の市民意識調査で57.7%、認定農業者数は目標値720経営体に対して平成26年度末現在633経営体、認定農業者等が耕作する農地の割合は、目標値33%に対して平成26年度末現在35%となっております。

次に、国や県との連携についてお答えします。

農政局や県主催の各種説明会等での情報交換を初め備前広域農業普及指導センターの協力による農業実務研修やブドウ、メロン等共進会の審査、また農政局等が行うパネル展等への市役所市民ホールの提供など、日ごろから連携を図っているところです。

また、中国四国農政局の再編により、昨年10月に新たに岡山支局が本市に開設され、農政全般に関する総合窓口の機能を有し、これまで以上にきめ細かく情報収集できる環境が

整ってきており、引き続き国、県と一体となって施策を推進していきたいと考えております。

次に、全日本ホルスタイン共進会で立派な成績をおさめたことへの所見と、大会への関与についてお答えします。

昨年 10 月に開催された第 14 回全日本ホルスタイン共進会は、5 年に 1 度開催され、ホルスタインの大会としては国内最大の大会で、いわば国体のようなものと伺っております。そのような大会で、市内から 2 つの農場と高松農業高校が出場され、いずれも優秀な成績をおさめられたことは、畜産に携わる、また志す方々にとって大変励みになるものと思っております。

本市では、県内において出品の主催をされている岡山県出品対策協議会へ記念品の贈呈を行い、また大会の報告会において受賞者の方々と意見交換を行うとともに市のホームページ上で大会の結果や写真などを御紹介させていただいたところであり、今後もその取り組みに目を向けていきたいと考えております。

この項最後ですが、酪農家に対する支援についてお答えします。

先般、岡山市において国の農政新時代キャラバン中国ブロック説明会が開催され、生産コストの削減や品質向上など、収益力、生産基盤の強化、高付加価値化等につなげるための施策が示されました。本市としましては、これらの施策を紹介し活用していただくとともに、県や農協等関係機関と連携しながら自給飼料の増産のための耕畜連携、飼料作物の生産拡大、農場直売経営の乳製品消費拡大などに引き続き取り組んでいきたいと考えております。

続きまして、4 番目、JR 津山線と国道 53 号線についての項、みまさかノスタルジーへの参画についてお答えします。

晴れの国おかやまデスティネーションキャンペーンに合わせて、JR 西日本ではレトロな内外装を施した観光列車みまさかノスタルジーを運行されると聞いております。全国の JR 駅で配布されるデスティネーションキャンペーンのパンフレットに、みまさかノスタルジーの運行情報とともに本市内のたけべ八幡温泉、たけべの森公園といった沿線の観光情報も掲載されており、沿線の活性化にも寄与するものと考えております。

以上です。

◎山崎康司都市整備局長

同じ項、御津地域の国道 53 号における渋滞対策についてお答えいたします。

国道 53 号は、岡山市の中心部と御津地区や建部地区を經由して津山市とを結ぶ重要な幹線道路ですが、御津地区では、議員御指摘の 3 つの交差点において朝夕のラッシュ時に混雑が発生しております。

国道 53 号における渋滞対策としては、これまでに津高高架橋の 4 車線化や首部橋西交差点の改良などを行ってきており、現在岡大入り口交差点の改良については国が、津島交差点の改良については国と市が連携して取り組んでいるところです。

御津地区においても、交通の円滑化が図られるよう議員にも御協力いただきながら国に対して引き続き効率的、効果的な要望活動を行ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

◆28番（森田卓司議員）

御答弁ありがとうございました。

まず、認知症に対することでございます。

けさの山陽新聞にも出ていたんですけど、塩崎厚労大臣が福岡県大牟田市での記者会見で、このような認知症の方の行方不明者の対策を広めるために市町村をサポートしていきたいというような記事も出ておりました。ぜひとも岡山市としても積極的な取り組みをしていただきたいと思います。その中で今年度事業として行方不明高齢者さがしてメール事業というのがございますが、この事業、ことしで事業を構築する基盤をつくるということなんですけど、本年度にできるんでしょうか。

◎那須正己保健福祉局長

松田議員にお答えしたように、システムについては今年度で構築が終わっております。現在、協力していただける、例えば市と見守り協定を行っている新聞配達業者とかいろいろな業者さん、あるいは関連行政機関、そういったところへいろいろな協力をお願いをして回っているところでございます。今年度中にどこまでできるかということについては、直ちにお答えすることはちょっと難しいんですけども、なるべく早い段階で協力事業者の方あるいは登録していただける方、要は検索に協力していただける方、これをどれだけふやせるかということで、そこをもって開始と考えれば、今月末から大体来月あたりにかけて何らかの形にしていまいりたいと考えております。

以上でございます。

◆28番（森田卓司議員）

今の局長の答弁では今年度中にはそういう構築ができるということで、じゃあこの事業を実際に始めるのはいつごろでしょうか。

◎那須正己保健福祉局長

大体なるべく早い段階でと考えております。ちょっと何月とかの時期まではお答えしにくいんですけども、可能な限り早くスタートさせたいと考えております。

以上でございます。

◆28番（森田卓司議員）

私はこの事業、決して悪いことはないし、やっていかななくてはならないと思いますけれ

ど、やっぱりもう一步上のGPS、こういう事業のほうがより効率的で、お金はもっとかかるかもわかりませんが、費用対効果を考えても、もっと地域の方たちも安心して高齢者の見守りとか認知症の方の見守りができるのではないかと思います。先ほど研究してみますかね、研究してみると言われたかどうかわかりませんが、高崎市に問い合わせたところ、県と言われたかもわかりませんが、県の補助金があるということは県がされるはずはないので、国でもそういう補助金とかを検討しているのではないかと思います、そのような情報は把握されていますでしょうか、どうでしょうか。

◎那須正己保健福祉局長

その認知症関係で、例えば検索メール配信システムだとかあるいはGPS、そういったものに対して国のほうが何らかの補助ないし交付金のような対応というもの、ちょっと具体については詳細を現在のところ承知しておりません。

以上でございます。

◆28番（森田卓司議員）

ぜひ調べてみてください。そういうことで、皆さんが安心して住み続けられるような地域をつくっていただきたいと思っております。

続いて、農業に対してでございます。

まず、第14回全日本ホルスタイン共進会なんですけれど、今市議会で市長から岡山市の魅力度ランキングが低いというお話がございましたが、北海道のほうでやられた大会で、県が主体かもわかりませんが、岡山市の魅力度、認知度を上げるためにはもっともっと大きな宣伝をするべきではないかと思うんですが、いかがでしょうか。

◎山本修司経済局長

全日本ホルスタイン共進会に関しましての再度の御質問ですが、こういった農業にかかわるいろんな大会への出品とか、そういった情報というのがなかなか事前に集まりにくい状況にあるのは確かかなと思います。今後こうした情報については極力アンテナを高くして情報を入手して、それがなるべく岡山市の農業の発信にもつながるように意を用いてまいりたいと考えております。

以上です。

◆28番（森田卓司議員）

先般、新庄村の村長さんのお話を聞くことがありまして、本当に補助金とか交付金をいっぱい取ってこようと思ってその情報を集める努力をしているんだという話を聞きました。農業に関して、やっぱりそういうことをしっかりとやっていかなくてはいけないのではないかと思います、いかがでしょうか。

◎山本修司経済局長

やはり、自分たち岡山市の農業というのを全国に発信し、全国的にも認めてもらえる、そういった分野が今回のケース以外にもふえてくるというのは、当然農業に携われる方々の意欲にもつながっていくことだと思います。先ほども御答弁いたしましたように、こういったことの情報収集に関しましてはアンテナを高くしていきたいと考えております。

以上です。

◆28番（森田卓司議員）

それでは、JRについて伺います。

JRのみまさかノスタルジー、先ほどの答弁を聞いておってもそれこそ情報収集というか、それができていないような感じがしたんですが、このことは御存じでしたか。

◎山本修司経済局長

みまさかノスタルジーに関しての御質問ですが、このみまさかノスタルジーという列車名、これが運行されるということにつきましては、たしか昨年の秋口にJRのほうから発表があったものと承知しておりますが、このみまさかノスタルジーに関しての詳細な情報については、私自身承知していないという状況です。

以上です。

◆28番（森田卓司議員）

今回、このデスティネーションキャンペーンに中心市街地で352万円ぐらいの予算がついています。でも、知らなかった。こういうことから中心市街地のことばかり考えて、周辺地域のことを考えていないということになるのではないんかと思うんです。そういうことをしっかりやっていただきたいと思うんですが、いかがでしょう。

◎山本修司経済局長

周辺地域への配慮というお尋ねでございますが、今回の事業、みまさかノスタルジーに限らず、いろんなことを通じて周辺地域への観光客の誘客ということに関しては意を用いているつもりでございます。昨年、結果的には余り集客につながりませんでしたけど、スマートフォンを使った「進撃の巨人」のイベント、これについては南区のサウスヴィレッジであるとか議員御指摘の津山線沿線のたけべ八幡温泉郷、こういったところもポイントとして設定して、なるべくお客さんに周辺部に来ていただくというふうな配慮をした事例もございます。今後もそういった視点を持ちながら、周辺部の観光振興にも努めていきたいと考えております。

以上です。

◆28番（森田卓司議員）

そうなんです。やっぱり、周辺地域にとってはつもりじゃ困るんです、やってもらわないと。いろんな歴史案内看板とか、そういう部分もありますけれど、ぜひやっていただかなくては困るので。今回JRの許可が必要かもわかりませんが、こういうみまさかノスタルジーの列車に乗られる方に周辺地域の沿線のアンケートとか、そういうものをもって、多分よそから来られる方が多いので、どういうふうな感じだったかというようなアンケートとかを地域活性化のためにとるようなことはできないでしょうか。

◎山本修司経済局長

今回、みまさかノスタルジーを利用される方々、こういった方々に関する情報につきましてアンケートが実施できるかどうかということにはちょっと今即答はできませんが、そういった方々の情報を集めることについては、どういったことができるか、最大限努力してみたいと考えております。

以上です。

◆28番（森田卓司議員）

もう時間もないんですが、こうやって聞いていると、経済局長と今いろいろ議論したわけです。きょう私は観光の分でやった、それから農業の分でやりました。観光と農業、関連があると言えば市政全般全部関連があると思うんですけど、そういう中でやっぱり同じ局長が農業、こっちは産業振興とかというのは何となく違和感を感じるんですけど、これは市長に答えていただかないといけない、総務局長が答えていただければそれでもいいんですけど。農業にもっともっと力を入れる、もうかる農業、努力した人が報われる農業にするためには、農林水産局とかというような局をつくってはいかがでしょうか。この質問をもって私の質問の終わりとさせていただきます。

◎大森雅夫市長

今の御質問ですけれども、私も経済局の範囲というのが非常に広い、局長がやる所掌事務が非常に広がっているという感じはいたします。かつ経済局の人員が少ない。これは、他都市に比べても歴然とした結果が出ております。本来であれば人も多く充てていかなければならない。ただ、全体の人数が限られていますから、その中での配分の問題であります。一朝一夕に変えていくというわけにはいかない。しかしながら、やっぱりその物事の重要性、今の地方創生の時代、経済というものを中心で考えていかなければならないということもまた事実でありますから、そういったところの組織、そして人員については重点的に考え、農林水産業を一つのものにするのがいいのか、それとも産業政策みたいなものを一つにしていくのがいいのか、いろいろな考え方はあろうかと思いますが、我々として

この経済が大きな柱の一つであるという認識のもとに組織等々考えていきたいと思います。
以上です。